

平成28年度第1回真室川町総合教育会議 会議録

平成28年7月26日(火)午前9時より、真室川町役場3階会議室において平成28年度第1回真室川町総合教育会議を開催した。

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| 1. 出席者 | 町長 | 井上 薫 |
| | 教育委員長 | 土田 稔 |
| | 教育委員長職務代理 | 遠田 且子 |
| | 教育長 | 新田 隆治 |
| 2. 事務局出席者 | 教育課長 | 八鍬 重一 (進行) |
| | 指導主幹 | 内和 通 |
| | 総務管理・学校教育担当 | |
| | 課長補佐 | 佐藤 洋子 |
| | 生涯学習・スポーツ担当 | |
| | 課長補佐 | 庄司 利彦 |
| 3. その他出席者 | 総務課長 | 佐藤 佐幸 |

4. 協議事項

- (1) 文化財保護施策について
- (2) ふるさと教育の推進について
- (3) その他

5. 内容

教育課長 只今より、平成28年度第1回真室川町総合教育会議を始めさせていただきます。まず初めに町長よりご挨拶をいただきます。

町 長 日頃の教育行政を担っていただき、子どもたちの健全な成長に向けてご尽力いただきありがとうございます。

昨年の全国学力テストの結果が良くないということを改めて認識しました。教員の教えるレベルが均等であれば山形県の子どもたちは同じような力を持つはずと考えられますので、差が出るくるということは何らかの特徴的な原因があるからではないでしょうか。

日頃の学習なり指導は現場が最優先となります。図書を充実させ、冷房を設置するなど環境面は町として向上に向けて整備を進めてきましたので、特に下位の子を引き上げるような取り組みをおこなっていただきたいと思います。

本日は、議題に沿いながら皆さんからご意見をいただき、進めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

教育課長 続きます、教育委員長よりご挨拶をいただきます。

委員長 町長より学力についてご意見をいただきましたが、教育委員会としま

しても学力向上は最重要課題だと認識しています。

新教育委員会制度が2年目に入り、総合教育会議も今年1月に町の教育大綱策定の会議をしましたが、今年度については第1回目の会議となります。教育大綱では伝承文化を含め6つの基本目標を掲げ、その方向性を示しています。平成32年までの5年間を計画期間としていますが、教員の問題や家庭、地域、社会の問題等、教育環境は常々変わっていきますので、その都度対応していかなければなりません。

そういう意味では総合教育会議は町の施策などの条件整備や子どもたちの命に直接かかわる重要な案件が発生した場合に対応策を協議することなどを目的としている非常に大切な会議であると認識しています。町民にも総合教育会議の位置付けなど関心を持ってほしいと考えますし、また、教育委員会としても制度が変わったものの機能としては合議制の執行機関であるということは変わりありません。本日、沓澤教育委員が体調不良のため欠席しておりますがよろしくお願ひします。

教育課長 それでは4. 協議より町長座長として進行お願いいたします。

町長 それでは(1)文化財保護施策について説明をお願いします。

教育課長 (資料に沿って説明)

町長 ただいまの説明について何かご意見はありませんか。

今まで観光につながる施策をしてきていない。交流課と教育課が連携して観光に向けて考えることができるのではないか。

委員長 町にある文化財をまずは町民に知ってもらうことが必要ではないか。新庄市では、新庄最上地域の身近な歴史探訪「七所明神巡り」のツアーを企画している。町の指定文化財16ヶ所すべてを回るのは、民間所有のものもあるので難しいところもあると思うが、教育課でスポット的に実施している事業に併せて町の観光に関連付けて実施できるのではないか。

職務代理 委員長の提案に賛成だ。町内に希少動植物が多く生息しているが、このままだともっと少なくなり絶滅する可能性があるのではないか。昨年、鮭川村に行った際、最上地域で環境保全活動をされている教育委員長の矢口末吉氏から、真室川町にもギフチョウやヒメギフチョウがたくさん生息しているが、真室川町はまだ保護対象としていないため、収集家により収集されてしまう可能性があるということをお聞きした。予算を確保して大々的に事業として実施しなくても、保護するための取り組みをしてはどうかと思う。

真室川公園のブナの木が少なくなってしまったが、梅公園が整備する前に植物観察させてもらった際は、下草も今よりきれいで種類もあって蘭のような花が咲いていた。都市公園というと芝生を植えてきれいに舗装して整備しているというイメージだが、真室川公園の特長を活かせるような整備の仕方を考え、町だけではなくボランティアを募って笹類の

除去などできないのか。

特に案内人の必要もなく、だれでも気軽に行けるところにあり、駅から歩いて行ける場所で真室川の自然の良さが凝縮されているのが真室川公園だとなれば、町民にも観光で訪れた人にもPRできるのではないか。

町長 公園の上の方にも歩く道はあったが笹類で埋もれてしまっている。奥の方にユリが咲いているがそこまでなかなか行くことができない。できることはやっていきたい。ギフチョウも糸出周辺にいるとは聞き、産業課長が今年探したが見つけることはできなかった。真室川もたくさんいると言う話だが、前からやっている人から受け継ぐ人がいないのが問題だ。サギ草も東京から来た人がすごいと言っている。教育委員会で担当を決めてやってみてはどうか。そのようなことに全然携わる人がいないのが問題だ。

井上委員 希少動植物関係も何年か前から中村湿原のツアーに何度か参加させてもらったが、参加者が少ない。せつかくの良い機会なのにもったいない。あさひ小学校は実施していると思うが、他の学校でも授業の中に取り入れられないのか。子どもたちはもちろんだが、教員も町のことを知っていただいて、指導の中に取り入れてほしい。親が興味を持たなければ、子どもも興味を持たない。

教育長 学校という意見もあるが、教職員も真室川町や地元を良く知ろうという研修を実施している。今年度は、7/29 に実施予定だ。見どころが多く回りきれないので3つのコースを設定し、教職員研修事業として独自で実施している。

井上委員 神室少年自然の家とタイアップして実施できないか。

町にたくさん良いものがあるのに知らないというのはもったいない。

教育長 昨年と今年、神室から体験の風をおこそう実行委員会で神室フェスティバルを開催したが、参加希望者が少なかったようだ。自然で遊ぶという事業への参加はあるが、学習するという事業には希望者が少ない。私も委員となっているので自然学習の内容についても提案していきたい。

町長 古河市との交流も冬だけではなく、毎年でなくとも夏にこちらに来て神室少年自然の家での体験も含めた交流も良いのではないか。

井上委員 子どもたちに体験させたことを発表する場を設けてはどうか。

人に伝えるためには、自分たちが理解していないとできない。ただ知るだけではなく、外に出すことになればもっと深く理解できるのではないか。

職務代理 とても良い意見だ。子どもたちだけではなく、町民全体に広げても良い企画になると思う。

「未来に伝える真室川の宝事業」は町で指定して行う事業だが、町民に呼びかけて真室川の宝と言えるものを募集し、その中で良いと思われ

るものを紹介すると町民も関心も高まると思う。写真など期間を決めて募集する。集めたものを何らかの形で町民に紹介するなどしてはどうか。

委員長

以前、新庄市ではボランティアの高校生が名所をシリーズ化して回り、感じたことを市の広報誌に掲載していた。市民が広報誌を見て知るといようなこともやっていた。

職務代理

鮭川村では動植物の専門的な方いるということと自然を守る会等の団体が継続して活動しているので目を向けることが出来る。真室川町の中にも自然や歴史的なものなど工夫をして応募してもらうのも直接知るといことになり、良いのではないか。

町長

それでは(2)ふるさと教育の推進について説明をお願いします。

教育課長

(資料に沿って説明)

町長

何か意見はありませんか。

委員長

資料4で興味深いものがある。「まむろ川創生町民アンケート結果」の真室川町に居住を希望する理由で20歳未満が居住したい理由を見ると「都会よりワーク・ライフ・バランスがとれた生活ができそう」と回答した人が37.5%いる。価値観が変わってきているのではないか。都会の方が収入も多いが、家賃も高いし、食べ物もおいしくないなど、こちらに帰ってきて収入が減っても家があったり、おいしいものを食べたり、絆があるなど戻ってきて良いと思っているのではないか。これを32年度までにUターン希望率を50%まで上げるとなるといろいろな施策が必要になる。教育の部分で言えばふるさと教育がでてくるが、居住を希望する理由の「地元が好きで愛着がある」も37.5%と同じ数値となっている。高くなくても、ある程度生活できるくらいの収入を得られる雇用を確保していかないと難しいのではないか。

教育長

県が出した企業を紹介する冊子が各中学校に配付されている。新庄・最上だけの掲載となると厳しいものがあるので道路も発達していることから酒田・山形・東根・天童など1時間程度の通勤圏範囲で真室川町から通勤できる企業を多く紹介することも必要だ。

町長

他に何かありませんか。なければ(3)その他について、事務局から説明ください。

教育課長

お手元にある昨年度作成した当町の学力向上プランをご覧ください。事前に確認いただいておりますが、再度、重点的な課題について説明いたします。学力向上プランを策定するにあたり、各校で現状を分析し、今後の取り組みを検討した各校のアクションプランがあり、それを前提にした町教育委員会としての方向性を示したものです。全国学力・学習状況調査の学力状況調査についてはご存じのとおり、「小学校については基礎基本が身につけている児童が多い」が、複数の資料を関連づけて考えたりすることに課題が見られる。より課題となっているのが「中学校で基礎基本の定着が課題」となっている。そのために各校での教科指

導について研修を重ねながら、授業を高いレベルに引き上げる。学校での授業づくりについても指導している。そのための手立てとして、授業づくりのポイントや週案の活用、研修の充実について、指導助言、進捗状況の点検までを昨年度から指導主幹がおこなう行う体制にし、目標に対してどのように進んでいるのかを進捗状況を踏まえながら指導している。

授業の質を高めることと合せて重要な点がある。学力低迷の背景には全国学力・学習状況調査の学習状況調査の記載のとおり、「平日2時間以上勉強する生徒が少ない。テレビ等を2時間以上見る生徒やテレビゲーム等を2時間以上する生徒が多い」という事実がある。中学生は家庭学習の時間が全国に比べて短く、部活動やメディアとつきあう時間が長いという生活の実態が問題となっており、その改善が大きな課題となっている。

家庭学習の習慣を図るには生活習慣の確立が必要であるため、「家庭学習のススメ」を作成し活用している。特に中学校では自主学習の内容について生徒に任せ放しの状況もあったが、一歩進めて個別の学習・自主学習の在り方についても教員が連携して踏み込んで指導するということで進めている。

併せて町の支援ということでハード面についてはこれまでも行っているが、特別支援教育体制の充実や幼保小中連携の強化についても現在、進めている。

繰り返しとなりますが、基礎基本がなかなか定着せず、中学生になると伸び悩み全国レベルより下がってしまうのは、授業の質向上とともに家庭学習の質と量にあります。家庭学習の習慣化が大きな課題になっていくという状況にあります。

町長 他に皆さんから何かありませんか。

委員長 町長にも報告があがっていると思うが、校長の意識が大切だ。昨年11月に学校訪問ではなく、各校の校長と教務主任に来てもらい学力向上対策についての意見交換を行った。そのことを踏まえて教育委員会で学力向上プランの数値目標を掲げて取り組んできた。全国学力・学習状況調査の結果が8月に出てくるが、校長が平成30年度に向かって取り組んでいることが、他の町村と比べるわけではないが最上地区教育委員会協議会半日研修会で他町村の委員に話を聞いたところ、数値目標まで出しているところは、同じグループの中にはいなかった。確かに中学校は数値があまり良くないが、現実が現実として受け止めていかなければいけない。

町長 詳しい話は聞いていないが、校長次第だ。

各校を訪問してきたが、授業の進め方や教室の掲示関係も教員によって違っていた。

教育長 教育委員の訪問の後に教育事務所の管理訪問があった。その報告があり、教員によって板書の書き方に差がある、段階的に授業を行っていない、めあてが記載されていない等、厳しい指摘があったため、校長に伝えている。全国学力・学習状況調査は実施対象児童生徒が変わると翌年は良くなるかという問題ではない。そのスパンを学校側がどのように見ているか。小学校は悪くはないので中学校の1年から3年生までに学力が下がらないように家庭学習を勧めてもやらない子がいる。できれば放課後学習教室のようなことを検討する必要がある。大蔵村では学習教室「未来塾」をすでに実施しており、一定の成果も見られている。部活のない日に町主導で実施してはどうか。補助金も制度としてある。

教育課長 詳細は確認しないと不明な点もあるが補助率は2/3だ。

教育長 どちらかというとな部活偏重主義という流れが根強く残っている。このようなことを取り入れていく必要がある。

教育課長 先ほども申し上げましたが、中学校になると学力が下がるという課題がある。授業の質を上げる努力をしていくことはもちろんだが家庭学習の質・量が問題であり、習慣化されていかないことが状況を厳しくしている。自分から学ぼうという意識が低いこともあり、意識を高める環境を強制的に作っていかないと家庭学習・自主学習に繋がらないという実態にある。運動部では部活動後に保護者練習があり、補充練習をしている。学習も同様で学習が遅れがちな中学生等を対象に遅れた学習を補う国の学習支援事業として平成27年度から「地域未来塾」が実施されている。家庭学習を習慣づけるための補修学習のようなものを実施できないか事務レベルで考えている。町の予算も要することから、検討の是非についてご意見や指示をいただきたい。このような制度も視野に入れて取り組みを進めていく必要がある。

教育長 例えば部活のない月曜日に中学校敷地内で実施するなど

井上委員 対象者が中学生となっているが決定なのか。

教育課長 内容については全てこれから検討する。

井上委員 小学6年生から対象にできないか。

教育課長 放課後子ども教室では対象になる。

井上委員 中学生になってからでは遅いのではないか。環境が変わる前の小学生のうちに最低限やらなければならないことを習慣化した方が良いのではないか。

教育長 この制度は中学生が対象だ。単独事業として実施するとなると、言うまでもなく目的効果の検証を必ずしなければならない。

井上委員 数学などは中学1年生からつまずいているわけではなく、小学生からの積み重ねができていない。

町長 今の学校体制の中ではできないのか。例えば、学習に遅れのある生徒は、部活をしないで教員の勤務内で実施することはできないか。夏休み

などの長期休みを利用してやれないのか。

教育課長 特に気になる児童生徒の個別指導は小中学校ではすでに実施しており、中学校では夏休みに山大学生に講師を依頼して学習会を実施し、自主学習の機会を設けている。

行政の取り組みとして実施することによって、町全体の空気を変えていくきっかけづくりとして効果あるものと考えます。

委員長 当事者意識がないとできない。学校や町が一生懸命になっても子どもの向上心を削ぐような保護者の意識をどう変え、施策を行っていくかということが難しい問題だ。

職務代理 話題が少しそれるのですが、町民の学習する場をもっと宣伝する方法はないのか。学習している場もたくさんあり、町の良さを学ぶ場を自主的なグループ学習だけでなく、町で企画することはできないのか。地域の方たちと話していると町外からお嫁さんに来た方は、町をよく知らないために良さが伝わっていない方がいる。興味を持っている人に町民講座を開催してはどうか。保護者が学ぶところを見て子どもたちも興味を持つ場合もあるのではないかと。指定文化財について、真室川公園に希少な動植物がいるということ念頭に入れた整備をやっていただきたい。町史にギフチョウとヒメギフチョウの生息地になっているという記述がある。自然環境の良い場所なのできちんとした整備をするとさらに魅力のある場所になると思う。

各課長に総合教育会議の内容についてよく認識していただきたい。

読み聞かせのボランティアに行ってきたときに、町外から来た方が、「図書館もない町に住みたくないな。」と言っていた。町民が図書館をよりどころにして学んでいくというようになればうれしい。また、町の図書館でぜひやっていかなければならないことは昔話の資料整理だ。

「未来の伝えていく文化財」に昔話そのものは入っていなかったが、今までの調査資料を見せてもらいたくとも、まとめて整理されたものが無いのが現状だ。貴重な昔話の資料が町にあるので、「真室川町に行けば本もあるし、伝承されている資料もある」というような整理の仕方をしていかなければならない。

町長 他になければ以上で協議を終了します。

教育課長 5その他について事務局からは特にありません。何もなければ平成28年度第1回総合教育会議を終了いたします。